

【妊娠中の検査】

お母さんと赤ちゃんが健康で過ごせるよう妊婦健診中に以下の検査を行います。

1. 妊娠初期～妊娠 12 週頃

1) 血液検査

①初診時：血液型・不規則抗体・甲状腺機能・血糖

②母子健康手帳持参時：

貧血・感染症

*ご希望に応じてトキソプラズマについて検査することができます。

2) 子宮頸がん検査

2. 妊娠中期

1) 血液検査：貧血・血糖

2) クラミジア検査



3. 妊娠後期

1) 血液検査：貧血・肝機能・腎機能・感染症・不規則抗体・血液型(血液型は 2 回の採血によって確定)

2) GBS 検査

GBS (B 群溶連菌) とは？

腸や腔中に常在することのある菌で、大人にとって通常問題になることはありません。出産時にこの菌が腔周辺に存在すると、生まれた赤ちゃんに敗血症、髄膜炎、肺炎などを引き起こすことがまれにあります。GBS が検出された場合には、予防のため出産時に抗菌薬の点滴を行うことが勧められています。

3) NST 検査：妊娠 34 週頃より助産師外来の時と予定日を過ぎた時、医師の指示があるときに実施します。NST を行う健診日は 30 分程度早めにご来院ください。

NST (NON-STRESS-TEST) とは？

出産に備えて赤ちゃんの心拍数の変化と子宮収縮の有無を 20～40 分程度連続的に観察し、健康状態をみる検査です。



【その他の検査】

1. スクリーニングエコー検査

①検査内容

最新の超音波機器を使用し、先天性形態異常がないかどうか調べます。先天性形態異常の種類はとて多く、重症なものから医学的には問題ない軽微なものまで程度はさまざまです。病気の種類によっては胎児期に診断することで、出生直後からスムーズに治療を開始することができます。

しかし、一般的に先天性形態異常のうち妊娠中の超音波検査で検出できるのは50~60%と報告されていますので、出生後に見つかることも少なくありません。当センターでは、赤ちゃんの病気が見つかってもすぐに対応する新生児科があり、安心して赤ちゃんを迎えることができます。

②検査時期

妊娠 24 週から 28 週頃に行っています。

*セミオープンシステムの方は 35 週頃に行っています(任意)。



2. 出生前診断

①検査方法

検査を希望される方は、まず出生前相談外来を受診してください。臨床遺伝専門医かそれに準じる産婦人科専門医が遺伝カウンセリングを行い、出生前検査について夫婦で納得できる意思決定ができるように支援しています。

②検査対象

希望者

③検査の種類と時期

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・母体血清マーカー検査クアトロテスト | 妊娠 15 週~16 週 |
| ・母体血胎児染色体検査 NIPT | 妊娠 11 週~15 週 |
| ・羊水染色体検査 | 妊娠 16 週~18 週 |

④出生前相談外来

*外来日時：水曜日、木曜日午後

*電話番号：03-3400-1311 (代表) 13:00~16:00 (平日)

※「出生前相談外来の予約希望」とお伝えください。

*相談時期は妊娠 11 週0日から 15 週 2 日です。

